

Cisco Mobility Express の内部 DHCP サーバ の使用

リリース 8.3.102.0 から、内部 DHCP サーバを有効にして、アクセスポイントおよび WLAN の スコープを作成できます。Cisco Mobility Express では合計 17 個の DHCP スコープがサポート されています。内部 DHCP サーバを使用すると、Cisco Mobility Express は外部 DHCP サーバを 使わずにサイト サーベイを実行することもできます。

(注) 1 つの Mobility Express の導入で同時に内部 DHCP サーバと外部 DHCP サーバを使用すること は、リリース 8.7 ではサポートされていません。

• DHCP スコープの作成 (1 ページ)

DHCPスコープの作成

内部 DHCP サーバを有効にし、Day 0 のセットアップ ウィザードおよび Day 1 のコントローラ WebUIを使って DHCP スコープを作成できます。通常、WLAN にスコープを関連付ける場合、 Day1 のコントローラ WebUI を使って DHCP スコープを作成します。

コントローラ WebUI を使用して、スコープを作成し、WLAN に関連付けるには、以下の手順 に従います。

手順

- **ステップ1** [Wireless Settings]>[DHCP Server]>[Add new Pool] に移動します。[Add DHCP Pool] ウィンドウ がポップアップ表示されます。
- ステップ2 [Add DHCP Pool] ウィンドウで、次のフィールドを入力します。
 - •WLAN のための DHCP プール名を入力します
 - [Pool Status] を有効にします

- WLAN の VLAN ID を入力します
- •DHCP クライアントのリース期間を入力します。デフォルトは1 Day です
- ・ネットワーク/マスクを入力します
- DHCP プールの開始 IP を入力します
- DHCP プールの終了 IP を入力します
 - (注) 集中型 NAT に接続するクライアント デバイス用のスコープの場合は、デフォル トゲートウェイとして Mobility Express コントローラを選択する必要があります
- DHCP プールのデフォルト ゲートウェイを入力します
- DHCP プールのゲートウェイ IP を入力します
- •DHCP プールのドメイン名(オプション)を入力します
- ネームサーバのために、必要に応じて [User Defined] を選択し、ネームサーバの IP アドレスを入力します。OpenDNS ネームサーバの IP アドレスが自動的に入力されている場合は OpenDNS を選択します。
- ステップ3 [Apply] をクリックします。
- ステップ4 スコープを作成した後、DHCPスコープにマップされている VLAN を WLAN に割り当てます。 WLAN に VLAN を割り当てるには、[Wireless Settings] > [WLANs] に移動します。
- ステップ5 WLAN が存在しない場合は WLAN を作成し、存在する場合は既存の WLAN を編集して、 [VLAN and Firewall] タブをクリックします。
- ステップ6 [VLAN and Firewall] タブで、以下を設定します。
 - このスコープが集中型 NAT の WLAN 用の場合、クライアント IP 管理または Mobility Express コントローラのために [Network(Default)] を選択します
 - [Use VLAN Tagging] で [Yes] を選択します。
 - ・ネイティブ VLAN ID を入力します。
 - •WLAN のために以前に作成した DHCP スコープを選択します。VLAN ID は、DHCP ス コープを選択した後に自動的に入力されます。

Add new WLAN			*
General WLAN Security	VLAN & Firewall	Traffic Shaping Advanced	
Use VLAN Tagging	Yes	-	
Native VLAN ID	122	v	
DHCP Scope	WiFi-Guest	VLAN ID * 20 V	
Enable Firewall	No	•	
VLAN and Firewall configuration a WLANs	apply to all	Apply (Seance)	

ステップ7 [Apply] をクリックします。

I

I